

当介護病棟におけるコンチネンスケアの取り組み ～尊厳ある日常生活の提供を目指して～

共同発表者：○藤原 さとみ

林 文月、稗田 孝子、岸下 結花、滝島 恵津子、森松 静、進藤 晃

【はじめに】

当院介護療養病棟において、在宅へ復帰できない患者の排泄問題は入院生活を送る上で生活の質に大きく影響する。私たちは患者の尊厳を重視し、おむつ着用が最小限となるような取り組みを行ってきた。しかし、重症度割合 70%、処置実施割合 70%、ターミナルケア 15%と介護度が高く、限られたマンパワーでのトイレ誘導は失敗も多く、患者職員双方に疲弊感を招く恐れがある。そこで患者個々をアセスメントし、適切なトイレ誘導方法を行うことで、患者の排泄と QOL の向上の足掛かりとなったので報告する。

【方法】

- 1)コンチネンスケアの勉強会の開催
- 2)個々の排泄パターンの分析とトイレ誘導方法の選択
- 3)職員の排泄ケアの統一化
- 4)OT との合同カンファレンスの開催
- 5)コンチネンスケア取り組み前後の排泄成功率の比較

【結果、考察】

排尿介助に関しては、患者個々の排尿パターンに応じてトイレ誘導方法を変え、トイレでの排尿を習慣化していくことでトイレにおける排泄成功率が上がった。また、成功率が上がったことで、職員に達成感が生まれやる気にもつながった。排便に関しては、個人の排便周期を確立するまでに至らず、今後の課題である。今までおむつを着用し失禁のあった患者が、トイレで排泄できるようになったことは、コンチネンスケアに取り組んだことの成果であり、患者の尊厳を重視する取り組みに繋がったと考える。

【おわりに】

おむつの着用は人の尊厳を著しく傷つけ、患者の QOL を大きく左右する。今回は、排尿に関する自立支援に取り組んだが、今後は排便についての自立支援にも取り組んでいきたい。